

昭和十八年六月二十五日招集(第三号)

第二面市議会议定例会々議錄

昭和三十一年第二回館山市議会定例会々議録(第二号)

昭和三十八年六月招集

一六月二五日(火曜日)

議事日程 (第二号)

才一議案才六二号

館山市取員定数条例の一部を改正する条例
の制定について

議案才六三号

館山市消防本部条例の一部を改正する条例
の制定について

才二議案才六四号

館山市消防署条例の一部を改正する条例の
制定について

議案才六五号

館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定
について

才三議案才六七号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定
について

議案才六八号

館山市防災会議条例の制定について

才四議案才六九号

館山市災害対策本部条例の制定について

才五 議案才七〇号

館山市保育所条例の一部を改正する条例の
制定について

才六 議案才七一号

昭和三十八年度館山市公営住宅建設工事請負
契約、締結について

才七 議案才七二号

寄附の収納について

才八 議案才七三号

議案才七四号

館山高等学校工業課程の備品購入契約締結につ
て
館山高等学校工業課程の備品購入契約の
締結について

才九 議案才七六号

才一〇 議案才七七号

昭和三十八年度館山市公営住宅追加更正予算
昭和三十八年度館山市特別会計国民健康保険
公営住宅追加更正予算

才一二 議案才七八号

昭和三十八年度館山市特別会計休養施設公
営住宅追加更正予算

才一二 議案才七九号

昭和三十八年度館山市特別会計蛇切水増収公
営住宅追加更正予算

追加更正予算

才一三 議案才ハ号

館山市監査委員の選任について

才一四 議案才八一号

館山市教育委員会委員の任命について

六月二五日

午前一時五分 開議

議長(黒川佐太郎君) 本日の出席議員数三四名。

こゝより才二回定例会才二日の会議を閉会いたします。
本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。
念のため申し上げます。

日程に示さるゝた議案は、取日その趣旨説明が終つて
おりますので、本日は直ちに質疑を行います。

日程才一、議案才六二号を上程いたします。本案に対
するや質疑を願います。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) や質疑なしと認めます。

本案を討論者略原案通り可決することにや異議が
ないやせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) や異議なしと認めます。よつて本案

は原案通り決定いたしました。

日程オニ議案オ六三号、六四号、六五号を一括上程
いたします。

・二番(石井正君)六五号について三点、オ一点は報酬
でございますが、これは今まで低かったので値上げをした
というのですが、まだ低いように感ずるわけですが、今ま
でこの位出ておったのか。

オ二点は、他市においてはどのような状況で出ておるか。
三点目は、団員の事故、場合の補償については規定
があるかどうか。館山市のいわゆる自警書団とか、普通の
団でなくて出張所を設ける計画が今後どのような
あるか。この三点について質問いたします。

・消防署長(岩田実君)お答えいたします。団員の報酬の
件でございますが、今までの報酬を申し上げますと団員

が年額八百円、輝班長が二千円、分団長が四千五百円、本部
部長が五千五百円、副団長が九千円、団長が一万七千円、
こゝが従来の報酬でございます。

こゝが今回の条例改正によりまして、団員におきましては
大体、二倍強の千五百円、班長は二倍弱でございますが
三千円、分団長八千円、副団長一万五千円、団長二万
円というベース・アップになったわけでございます。こゝは
現在の他の物価と如、そういうたものから比較いたします
と、非常に低額であるというこゝは、よくわかつておるうで
ございますが、消防団員の方は、昔から、何といいますが、
郷土愛による自己防衛というふうな意味をもつて、それ
に代わっておるわけでございます。他市う状況と比
較いたしますと、そう、他市よりあるというような報酬
ではないわけでございます。

二 自 山 日 書 会
大体、渠内の他市う状況を見ても、団長におき
まして二万円・野田市うごとく相当財政豊かな
都市におきまして、団長は二万円よりもつと少ない
額を支給しておるようになつております。

この点、大へん消防団員の劣苦勞を願つておる
わけでございますが、他市と比較し、或いは市う政
政状態とくらひ合ひせきしても、この限度でやつて
いたゞきたいと思つておる次第でございます。

なお、団員の事故の場合における補償でございます
すが、これは、館山市消防団員等公務災害補償
条例によりまして、療養費、その他補償を行なうよう
になつております。

それから消防署の出張所を設ける考えはないかと
いうようなお話でございますが、現在消防署は本署

が一、分遣署が三つございます。

これは昭和二六年に船形、館山、両分遣所が開設された。三一年に富崎分遣署が開設になったわけでございますが、現在の消防力の基準からいまして、これは、分遣署の数が多い位でございまして、これ以上、分遣署をふやすようなことは、考えておらない次第でございます。以上、お答えいたします。

・議長(黒川佐太郎君) 本案に対する質疑は打ち切り、討論省略。原案通り可決するにや異議ありませんか。(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) や異議なしと認めます。よって本案は、原案通り可決されました。

日程才三、議案才六七号を上程いたします。や質疑願います。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(里ッ佐太郎君)也質疑なしと認めます。

本案は質疑をこゝにて打ち切り討論省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(里ッ佐太郎君)也異議なしと認めます。

よって本案は原案通り可決さふまゝな。

日程才三議案才六七号を上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(里ッ佐太郎君)也質疑なしと認めます。

よって質疑はこゝにて打ち切り討論省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(里ッ佐太郎君)也異議なしと認めます。よって本案

は、原案通り可決さうなした。

日程才四、議案才六八号、議案才六九号を上程いたします。
。三四番(山本昇君)防災会議条例の制定につきまして、二、三
お伺いしたいと思ひます。

才一点は、災害対策基本法というものが、三六年来に
制定された。かようにいつておきますが、市民の生命財産
を守るといふ立場におきまして、もっと早くこういうものを
制定すべきではなかつたか。なぜ今日までこれが、そのま
まにさうなつたのか。

次に防災の対象が火災等或いは、風水害といふことも考
えられますが、なお、その他にこういうものを対象にする
のだというやうな、防災の対象がどの程度のもうであるか
これが才二点。

次に災害の状況にすりまして、いろいろものがあろう

と思ひますが、この委員の構成を見ますると、まだまだ、もう
 とうとう関係のものも入るべきではなからうかということ
 も考えられますが、その点につきまして、一応、こうな形式
 的な構成委員がありすが、具体的にどういふ方を
 任命するお考えでござるか。さらに専門委員というこ
 とがありますか。専門委員というものは、どういふふうな
 目的でどういふふうな観点から置くのか、ということ。この
 点を知らせて願ひたい。かゝうに考えらるる次でございます。
 ・助役(小出武男君)に代ひま山本議員からう質問うお点
 についておから申し上げます。

なぜ三七年の発布になつた法令を今、市はやるのか。こ
 ういふことでございますが、まことにごもつとも存じます。
 實は基本法につきましては、ただ今、るるや質問がど
 ございますように非常に非常に内容が多岐にわたります。

一かも、その計画に万全を期さなければせつかく作つても
効果が發揮できないというような観点がございまして、非常
に研究をいたつたつてございます。仮りに本日現在で
これが各市町村の設置状況を見ますると、市では十九
市のうちで、よび大市一かできておりません。館山市は
本議会がや議決なりきすれば、才七番目に市と一々
設置する。こういう段階でございます。

町村では、七ヶ村町村で二二カ町村一かできておりません。
こういうふうな段階でございまして、各市とも作る以上は
一二分に内容を検討してやるということで研究にひ
きをとつておつたといううが、遅れた理由でございます。
本市といたしまして、この際、一応形式に過ぎないかもし
いせんが、本日提案いたしました二案につきまして、や
決議を得る一上は、明らかにこの条例、規則を施行する

にめい、こゝにぬづけを考ふる余地が十分にある。す。例え、予算にいたしても、本議会に提案いたして、おりませんが、こゝらにつきましては、相当額、予算も、いふことも予想いたしますが、こゝらにつきましては、まだ今、申しますように、精細な立案が立ちませんので、予算計上はいたしません。で、当面、補償等問題につきましては、その都度、追加予算なり、或いは、早急の場合に、予備費でもつて、おこなつていきたいことを、オ一点について、お答え申し上げます。

。総務課長（山口実君）オ二点の災害、対象となるもので、あり、すが、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、津波、地震、大規模の火事、爆発、多数のものの遭難を伴う船舶の沈没、極端な雑踏、または、旅客列車の転覆等の大規模の被害、発生、こういったものを対象

にしていまして、その被害の限度といはしめては、大規模
の事故、こういったことをきめまして一応、館山市よりで考
えらる大きな事故といはしめて、高潮による災害、大火災
、こういう大きなものが対象になりまして、それ以下のもうは、
災害救助法によつて措置されると思ひます。

オ三三の委員の構成でございます。

オ一でございますが、千葉県食料事務所、館山出張
所長、富崎測候所長、館山基準監督所長、

オ二、館山農林事務所長、同じく土浦出張所長、同じく
保戸健所長、財務所長、

オ三は、館山の市長、

オ四、助役、収入役、総務課長、福祉事務所長、厚生
課長、農産課長、建設課長、市民課長、商工課長、
六日、消防本部次長、

七は、館山駅長、館山電報電話局長、東京電力館山営業所長、それらの方を一定予定してあります。

次に専門的委員の構成でございますが、一定防災計画を立てる途上におきまして、これらの方々に、これらの方々に各取場の長でございまして、それにつながるさらに事務的にも内容的にも詳しい方を専門委員に上げまして、一定事務的に計画ができる、いわば小さいところまで気がつく、そういった専門の方を考えております。まだ、この点につきましては、どういう人をどういうふうに残すかということとは、具体的な点はございません。

・三四番（山本昇君）ただ今の説明では、了解いたしました。ただ、要するに先ほど申し上げたように一日も早く、そういう態勢を築くことが市民のサービスであり、早急にとるというふうな考え方からいたしまして、早急にこ

れをやっていただきたい。かように考える次第でございます。
なお、構成委員の面におきまして、それから、災害の対象
という面におきまして、私ちうと疑問を持っておったんです
が、今説明を聞きますと災害の対象というものは、広
範多岐にわたり対象になり、当然、それに伴いまする
委員もそういう層を入りなくてはならないのではないかと
いう私ち考え方も各機関はど入りらけてあるようにや
説明がよりよしなうで、こゝ点納得いたしました。さらに
一つ考える点は、館山の特殊性といひましようか。やはり、
海を中心と一マある館山市でございますが、いわゆる海の
方々関係者がどう程度入っているかということも考えて
おらんです。が、これをどういうふうに考えておらるか、
さらに、なまたこいは、国々防衛といえ、そうかもしらせ
んが、館山市に海上自衛隊の基地がございしますが、こ

うに連絡の状況はどういうふうにお考えになつておられるか。この二点について御説明願ひたいと思ひます。

・総務課長（山口実君）才一点の水産関係の専攻の委員のことと思ひますが、そういつたものにつきましましては、才四条の専攻委員に水産関係の方をお願いいたしたいと思ひつております。

次に自衛隊隊関係についてでござりますが、自衛隊の關係につきましましては、日本全国を自衛隊幹部におきまして所管区域が設定されておるのでござります。

その所管区域内に災害が起きた場合には、直ちに知事なり、中央の指示を得て出動することになつております。

・三ッ番（安藤亀吉君）総務課長さんに伺ひます。

館山市は、全国まゝに見る大災害というふうなことは、めつたにワケ、小さなものはたくさんあります。従つて、

こういうふうな基本対策法々ようなものに変わるべき、いろいろの小さな施策が考えられてあった。ところが、となく、いかにおざなりがちになって今回初めて基本法ができて地についたというふうに私考えております。

そこで、今まで確かに、市長が会長であり、その他構成員メンバーも大体申し上げたと同じようなメンバーでできておるが、熊本市災害対策本部、これが、福祉課の中にある。

今、一つ、これと密接な関係を持っておりますが、このまた市長が会長になっておる千葉県南部防災連絡会議、というふうなもの、こういったものが今回基本法ができてくることによって基本法に包含されていくのかどうか。

仕事、分野、これを一つお伺いしたい。それから、水防法による水防団の活動、これは、熊本市においても、設

置いなければならぬ水防法でございしますが、申し上げた通り積極的な被害がないためにあまり活動の必要がない。従って水防団は、消防団が兼務という形でやっておりますけれども、水防法に基くところの水防団というものは、設置しておらない。

そういう状態で水防法等の関連性についてあるまいかということをお伺いしたい。

それからいま一つは、ここに条例が設置された以上、施行規則がもちろんできておると思いますが、それによってあるまいか。この三点についてお伺いしたいと思います。

。総務課長（山口実君）オ一点の問題について回答を申し上げます。

災害対策基本法のオハ条に施策に対する防災

の配慮という項目がございます。その中に条文を見ますと、今まであった災害に関する法律、そのものは、依然として存立するわけでございます。

また町村で行なっておった、そういうあった業務、そういうものは依然として続くわけでございます。

この法律によってさらにこれが横の連絡、縦の連絡を強化して一貫した災害対策を樹立するが本筋でございます。特に施策の中に一々項目を上げておきますが、この中に明確にうたわえてあるわけであります。

次の取組関係でございますが、これは、新たに防災会議がございまして、おのう今までのありまいた市の防災関係の内規的なものも全部含めまして、防災会議にはかりまして、専門委員の意見も聞き

まして、ここに熊山市防災態勢を確立するため、条例案と規則を一応作る考えでございます。

そういうことによつて熊山市の水防は完璧になるように努める考えでございます。

次に施行規則の関係でございますが、この基本法が本法でございますして、国におきましては、政令、省令、こういうもので国は行なっておりませんが、一応規則の内容によりますと、これらの政令、省令、こういったものがあるし、さらに本法の中に市町村長の責務と、そういう条項が規則的に政令と一々あるわけでございます。こういうことが本法によつて施行されるわけでございます。

それを元にしたしまして、防災会議でもつて防災計画を作成しまして、完全な防災計画を施行する考えでございます。

ございます。

一応、防災会議にすりまして計画を依りましたものを規則にかえて実行していく考えでございます。

三々番（安藤電吉君）どうも屋上屋でなかなか複雑性があると思うのですが、明確な地についた運用をうけているのだと思います。

二九番（鈴木市藏君）先ほどの三四番議員の質問に重複するかもしれませんが、災害対策基本法に對する本部の条例が制定された。これが三六年度にこの法律が制定されたが、館山市は現在まで延びておった。今度、これが初めて条例化されたということに對して伺う見たいのですが、よとの祭りといえはそれまでですが、本年度二月のなかば頃から、冷潮が入ってきたりして、沿岸一体が冷潮のために漁業がひび上っていったという事

態が起つたのです。そういうような問題がその中に
含まれていないように私は聞き取らなうですが、この問題
に対してどういうふうなお考えがあるか。私は政府の
法律は法律として、熊本市として、その土地の実態に
そういうものを条制の中に書いても、やるべきじゃないか。
こういう事態が起つた場合に、この問題に適用す
るまいないか。どういう考えであられるか、この点だけを
伺って見たいと思います。

・総務課長（山口実君）　ただ今この問題でございますが、こういう
の問題が生じた場合に、これらの災害を救うために中
央では農林水産業に対する特別助成、こういった法
律を行なつておるわけでございます。

私も専門的に水産関係の救済事務をそこまで
研究してありませんが、一応農林水産業に属する特

別々助成なんの形であるわけでございます。

これは今までの法律が存続しているわけでございます。

・二九番(鈴木市蔵君)水産に対しては、ただ今説明のあった
そういうような法律が設けられておるといふようなことを聞き
ました。私は一二年間、この席にあるが、執行部と
ては、そういう研究を見たことがない。一からば、そういう
ものがあつたところならば当然みんなたちも新聞紙上
でも見ておるし、早くこの問題を取り上げて解決すべ
きではないかと思う。私はこの議場において、法律が
どうなうといふことでなく、そういう問題をとくと、研究
すると同時にこの中に加えてもらいたい。漁業がその日
暮らしといつてはわるいけれども、實際生活はその日暮
らしてあつて、そういう事態が起こればあすからの生活
に困る。熊本市と一々それを項目に入っていたくない。

特にお願いするもうございます。

助役さんでも市長さんでも、この問題について回答を
していただきたい。

・助役(小玉武男君)ただ今の鈴木議員の質問でござい
ますが、災害対策基本法は、例えば、農業、漁業と
いうものに対する災害ということの意味でなくて、こ
こにも法律で規定してありますように、この法律にお
いて災害という意味を限界を書いてあるんですが、
それには、暴風とか、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、
津波というふうなものによってそのときの住民が被害
を受ける場合の救済をする目的が主でございまして、
ただ今申し上げましたような、そうして住民の被害
には、もちろん違いありませんが、農家が干害に合う
とかということとは、国家が別の法律で救済する。

この法律の趣旨はそう一に災害ではなくて、今申しましたような天災的のもので住民が被害を受けて、住民の福祉が阻害されるということを救済するが、この法律の主たる目的である。そういうことでございますので、ただ今の鈴木さんといわれたことももちろん被害には相違ございませんが、この法律以外で考えられる被害ということに今うとこう勉強が足りないかもしれませんが、私としては、そう解釈してまいります。

・ニル番(鈴木市蔵君)被害は被害と一々今いったような問題であつて、農産物が台風のために倒れて一々であっても漁業の水温が低くなったために、漁業が困るというところも同じだと思ふ。だからさっきからいつておる。是非、これは、熊山市は、熊山市の突進と一々、これをいれてもらいたい。めったに津波とか、高潮ということとは、この

辺でござい。だから現在、ほかに対策方法があるといつても現在ないが現実だ。こゝでは、熊山市の水産が振興するわけない。一々いけば、当然、こゝを熊山市の条例に含んでもらえばいい。こゝがわからぬいのですめ。

・議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午前 一〇時四五分 休憩

午前 一時〇二分 再開

・議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

・二九番(鈴木市藏君)答弁うけつりまし。質向を打ち切

ります。

・一六番(関武夫君)先ほど三々番議員の質向でこゝ防災会

議ができた場合に従来の踏襲のものはどうするということに對して、総務課長は従来のものは、そのままだといふやうな答弁を申されたが、これは災害対策基本法に基くものでありまして、館山市の地域とすればこの種のもうは、最高唯一のもうであつていいと思つうであります。従来のものを整備統合して解消するようにもつていく考えはないか。この点とそれから、三四番議員の質問で防災会議の委員の中に水産関係が入つていいかということですが、それに対して総務課長は専任委員云々ということでも答へがありまして、専任委員でなくて、会議を形成する委員について質問のやうに申したんです。その点については、どうも考えになつておられます。

・総務課長（山口実君）ここに示しました防災会議で

ございすが、これはやはり防災に關する市、最高のもうでございすが、今までやつておいた気象連絡、災害救助とかそういうものは、依然として残るわけでございます。結局、その組織の一つになるわけでございます。従前、やつておいた災害事務の部、力から生れてくるわけでございます。それにしまして、防災会議でも

って市の全体の防災計画なるものを依るわけでございます。一六番(関武夫君)これと同じような構成のもの、既にござつておる。そういうものは、いらないのじゃないかというが、私、實向の趣旨なんです。

。助役(小出武男君)今、総務課長から申し上げた点は、相当細部にわたる機構の中で、本委員会が発足して、例えは、災害対策本部、こういうふうなもの、これは、これができれば、おそろく趣旨もそれから機構

いろいろな面で一致する面が出てくると思います。

ですから、発足して、そういう重複するものは、整理していきなさい。そういうふうに考えます。今やところ、そこまですべておこなうと申し上げましたが、考へ方については、重複する面については、整理していく。これを一本化していきなさい。こう考えております。

・総務課長（山口実君）委員のうち、水産関係の委員が、あるかどうかということですが、一応これは、中央から示さる準則によつたものでございまして、水産関係の委員といたしますと、市長部局の取組の中、新工水産担当の係をこゝにあげてありますし、さらに、果の関係におきましては、果の農林財務所長、こういったものをあげてあります。なお、その委員で解決つかない場合に、専任委員の意見を聴取いた

しまして、防災計画を樹立したいと思ひます。

・一六番(関武夫君)オニ点の答弁でございしますが、ちよとふに落ちない点もございしますが、おっしゃることはわかりましたので、賛成を打ち切ります。

・八番(望月照正君)ただ今の防災計画の執行部を考へ方はよくわかりました。例えば災害の発生するとき、実際に要請する対象の人たち、こういった人たちは対象になっておりますか。

・総務課長(山口実君)そういう点につきまして、今後防災会議によりまして、災害計画を立てるわけではございしますが、しかし、現在の状況から考へまして直ちに活動できる人として、消防団員が主だと考へております。

・八番(望月照正君)ただ今の消防団を大体的に対象に

しているのだという考え方は結構だと思ひますが、この
前、分団編成のときに船形分団の方は二四名を水防
の方は今のところ必要ないのだ。そのために一八名に減
員すべきであるというところで減員されたことを不満に思
つてゐる方がいらつしやいますけれども、消防団に依存
するならば消防団の人員をさらに強化すべきではない
か。こういうふうに考えております。

。助役(小出武男君)中趣旨のほどはよくわかりました。

それで一応計画を立てまゝで、そういうことを計画に
織り込んで後において考えていきたい。

こういうふうに申し上げたいと思ひます。

今、ところそういう約束をするのは早いので、今後計
画に従ひまして、必要な場合に、そのときに措置する。
こういう考え方にやう承を願ひたいと思ひます。

・八番(望月照正君)よくわかりました。早急にそういうことを実施していただきたいと思います。

・六番(西村真次君)この条例の所掌事務ということな
 んですが、防災計画を作成し、あらゆる災害に対す
 る情報を収集するということが打ち出されてあり
 ます。けれども発生した被害に対する補償とい
 う点については、一字も触れたところがないように思
 います。この点をこの会議が包含しているものかどう
 か伺いたいと思います。

・総務課長(山口実君)補償関係につきましては、この防災
 会議にすりこまれて被害状況、こういうのもうが地方防
 災会議に反映するわけでございます。その被害程度に
 よりまして、地方に対する補助、起債の特例とか、或いは
 各家庭に被害を及ぼす程度によって中央の防災会議

によつて決定して頂くわけでございます。

二八番(西村真次君) 中趣旨よくわかりました。発生した被害の補償という点については、回りくどい手順を踏まなければ、補償金が現実につかめないような気がするようであります。この点につきましては、そういうことであれば、一応了承しておきますが、発生したような場合になさるべく速やかにそれができるように、中々留意願いたいと思ひます。

七番(田村源治郎君) ちよつとお聞きします。船が油を流したとか、海岸の磯根に被害をこうむる。そのときは、災害に含まれておるんですか。

総務課長(山口実君) こう趣旨は、いわゆる大きなものを対象にしているようで、少部かつそういうたことにつきましては、該当してありません。

こゝ点については、さらに漁業関係でもって融資の方法が取られております。

七番(田村源治郎君) 私の聞き方が悪かったかも知れませんが、大きな船が油を積んで海岸一体が磯根が金、減する。そういうことがなりふり得る。

これが、災害対策の対象にならないんですか。一体に油を流すという傾向は、こゝ前にもあるし、今度も白波の根本にもそういう状態が合った。富崎にも流れてきた。これを対策の中に入れていたくない。

これを含んで考えてもらいたい。

二四番(島野茂樹郎君) 組織についてお伺いしたいと思います。本部長、副部長ということになって部が置かれるわけですが、大体部はいくつ位置いて部員は何人位なさる予定でありますか。それとも一つ、先ほど総務課長が

大多数の雑踏も対象になるというふうに発言されたようですが、その点もう一度はっきりおっしゃっていただきたいと思います。

・総務課長（山口実君）才五条の部内関係でございますが、この点につきましてはやはりまだ申請も終わっていないし、これからのごとでございまして、一応研究いたしまして、熊山市の実態にそう、部会を設定したいと思っております。現在ところ、まだ、はっきりといくつ作るといふような案は持っておりません。

解説そのまゝを読んでもありますが、災害の定義でございます。

「災害」という用語は、従来、多種多様な意義で用いられてきたのであるが、災害対策の基本法としていう立場から、他の災害関係法令を包括する方向において取

リ扱ふことと一々している。すなわち、本法における災害は、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波その他の異常な自然現象により生ずる被害だけで、はたして、大規模な火事、爆発、その他放射能物質の大量の放出、多数の者の遭難を伴う船舶の沈没等大規模な被害の発生を伴う人為的原因により生ずる被害のすべてを含むことと一々している。従つて、極端な雑踏、または、旅客列車の転覆等の大規模な被害の発生を伴う大規模な事故は、本法の対象となるものである。

これを明瞭にたわけて置いて、詳細な内容については、具体的なところまで置いておきます。

一 番(辻田実君) 今、雑踏といふところの解釈は、どう範囲にするかということなんです。その点について

どういふ見解を持っておらいますか。

・総務課長（山口実君）雑踏に対する解説はここではないわけでございます。

・八番（西村真次君）先ほど来の質疑応答を伺っておりまして、考えますことは、総務課長さんや説明にありまして、なうは、被害によつて来た原因である災害、これを強く打ち出しておらいます。また先ほど七番議員、三々番議員の言つておられることは、災害によつて結果付けられた被害の種類というのを問題にしていると思つたのですが、この点で所着の食い違ひがあるように見受けられます。

私どものもつとも大事だと考えることはよつて来た原因因でなくて結果である被害の種類の方が大事だと、こゝうに考えまわけてあります。そこでこゝ防災

会議の対象とする被害の種類というものを今後明確にされるように研究していただきたいと思っています。それから先ほど八幡議員から対象となる人についてというふうなお話がありましたが、これも例えば八幡の祭礼があつて近郷近在の方々が汽車で北条駅にやってきました。その途中で那古船形で大事故が勃発して乗車している方が傷ついたという場合に館山市民だけを対象にするのか、或いは他町村の人も対象にするのか、こういう点もあると思います。

かような点を要するに結果となつて現われた状況、それらを対象に研究されるように要望したいと考えています。助役（小出武男君）先ほどからいろいろ質問がございまして、よろしく事務局としてまだ完全な回答ができていないことも遺憾に存することでございますが、一応法

律自体が解釈の問題になると思います。

従いまして、今度規約が議決されまして、発足して、
 以後におきまして、今度そう一面におきまして、十分
 討議をいたしまして、市民の福祉向上のためになる
 だけ努力をしていくという点で了解願いたいと思
 います。

います。今で条文が非常に長うございまして、一冊も解説もまだはつきりした解説もないわけでございます。できに後においては、甚だ失礼でございますが、今後十分勉強いたしまして、早期期待にそのような線に持つていきたいと思います。

議長(黒川佐太郎君)質疑はこゝにて打ち切り、討論者
略して本案を原案通り可決することに決し異議ござ
いませんか。

(「要議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中興議ひれと認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

日程才五議案才五ヲ号を上程いたします。

一〇番(辻田実君)きやうの説明によりますと、保育所の

臨時用材料と一々三十五万六千四百円というのがある

わけでございますが、この定数について増加は、船

形地区の従来六〇名のものを一〇〇名にする。四〇名ふ

える。きやうの説明で参りますと、この用人は、船形

北条地区におききすところ二名の増だということだが、説

明さしたわけでございますけれども、この点については、船

形、北条地区に二名従って四〇名増員するところの船

形の保育園については、一石のやかということについて、

確認したいということと、従来の保育所の取員に

についても過重労働でもって耐えられないということか

非常にあるわけでございます。この点については、先般事件等も起きて注目の的になっております。

全国的に保育所については、根本的に考えなければならぬという状態の中にありまして、船形の保育園に対して、四〇名の増員に対して、この程度の手算措置、また施設についてもいろいろなものが大きくないようでございますが、そういう点で今まで以上に従業員の人たちに過重労働にならないか、ということ、さらにその増加に対して園児に対して、いわゆる寄せがないかという点について説明していただきたいと思います。

・福祉事務所長（鶴沢貫寛君）ただ今のやり取りでございますが、保育園と幼稚園を混同しているのではないかと思います。説明のときに私が申し上げましたのは、船形の保育園の定員増でございます。

一、予算には、関係ないわけでございます。

一〇番(辻田実君) そうすると、前日から審議の中で
四〇人がそうまゝ増員されるということになるわけだ
か。

・福祉事務所長(鶴沢貫寛君) これは、県の了解を得
まして四月一日から増員を以てするわけでございます。
それは当初予算で増員をやりまして定員増に対
する増員はやってあるわけでございます。

一〇番(辻田実君) その点について、従来より保母や子供
に対して無理になってくるようなことはありませんでしうね。

・福祉事務所長(鶴沢貫寛君) これは、三十七年度の事業に
おきまして、二六坪の建物を増築いたしまして、それに
そうえまして、取員も三十七年度より、二名増員いたし
まして、増員に対する措置がござりますから、そう

―に既にありません。

・六番(秋山六三郎君) ころ保育園の定員を増加する条例の一部を改正する。 ころことですが、施設や整備について、既に三八年年度の当初予算において計上してある。 或いはすでにできてある。 ころいうことである。 ますが、定員をふやさなければならぬ。 ころいうことは、従前にわたってあったわけではございません。

ころいうことは、条例をよとに―て実際執行して―てよとから、条例を作よと―いうことは、本末転倒―てあるように思ふのですが、これはすでにできて―てます。 執行―てあることとてありますので、けちをつけるというわけではございませんが、今後 ころいうような問題がありますときには、やはり事前―に―ころいう措置を講じてや―てい―てい―たいと―ころいうことを要望―ておきます。

議長(黒川佐太郎君) お口かりいたします。

質疑を打ち切り討論者略原案通り可決することに
中々議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中々議なしと認めます。よって本案
は原案通り可決さへうした。

日程才六議案才七一号を上程いたします。

中々質疑願います。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中々質疑なしと認めます。

お口かりいたします。質疑を打ち切り討論者略原案
通り可決いたします。中々異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中々異議なしと認めます。よって

本案は原案通り可決いたしました。

日程オセ議案オセ二号を上程いたします。

・二五番(萩生田七郎君) 本案につききいて、要議はございせんが、二三お伺いたいと思います。

オ一点は校舎の建築費はどう位かかったか。

オ二点は、現在やっておりますけれども生徒の分布状態から見て、関係町村に対するの基本的な経済負担と申しますか、こういうものを確立すべき交渉を始めたかどうか。

誤解がおりますといけませんからオ二点につきまうまくわく申し上げます。

P、T・Aの柱格から見てもP、T・Aの負担というものが、野放しにされているが、実際問題として全国的にこういう立ちの高等学校に対してP、T・Aが経済責

担をすまうということは、めずらしいケースであります。

従って市民の一人としては、饒羽高校のP・T・Aに対しては、感謝をしておるものであります。しかし、P・T・A活動の限度というものがござります。容易じゃないと思っております。現在のP・T・Aの方々は、そこで先ほど申し上げたように饒羽市の子弟が四、町村の子弟が六、七、八の生徒分布状態において、極めて辺で教育の機会均等からいっても教育効果の向上からいっても、正式に関係町村に対して経済負担の原則と申しますか、これを確立すべき交渉を開始したかどうか、と申しますことは、県立移管という問題が起きてゐる。従って、今後、市負担において、経済負担は、莫大の負担がかかるものであります。

そういう観点からいって、特に当局の意思を、ただ

１にいわけてあります。

庶務課長（千場伊右エ内君）この建物の工事實は坪四万円で百万円かかっております。

教育長（工藤和平君）オ一点の関係町村のはたらきかけという問題でございますが、これは市長う答弁めと存じますけれども、教育委員会として考へ方を申し上げておきたいと思ひます。

館山高校がＰ・Ｔ・Ａの非常な努力によつて整備しつつあるということは、お言葉の通りでございます。

この点につきまゝでは、中実内うように館山の小学校の大半がほとんど全部でございますが、大正十二年の震災に倒れまゝで、古校をもつて改造したというものが実態でございます。従いまゝで、ナニの学校が老朽校舎であり、危険校舎である。こういう状況でございます。

まして、中学校のうち、四校までが、こゝまた、
旧文舎であり、かような状態にうもとに我々、三一年か
ら教育条件の整備に微力を尽くしてきただけであ
ります。が、いよいよ義務教育の観点から、こゝらう
整備に迫り、まして、館山高校まで、手が回らな
かつたというのが、実情でございます。

従いまして、いろいろP.T.A.の努力によつて、整備さ
れたというふうな結果になつたのでございすけれども、
我々といひ、ましては、工業課程ができて、一めも持
来にないで、これを金めた館山高校が、県立移管
へと持つていかなければならぬ、という情勢に、かんが
まうと、本年度新たに、重点主義の中に、館山高
校教育の育成という点を特に付け加えまして、こゝ
の整備に努力をしなければならぬ、という気持を持

っております。今後におきまゝで、予算とくらみ合
はせて、整備に努力いたしまして、P・T・Aの負担
をもう少し限り、軽減したいという気持ちを持っております。
なおお話の郡部六、館山市四ということに対しては、昨
年から郡のものに対して若干の寄付をP・T・Aを
通じてもらつておるわけでございます。これが市の収納
になつておるわけでございます。

○二五番(萩生田七郎君)オ二点でございますが、こういうア
リ方がいいのか、悪いかわかりませんが、館山市立高等学校
でありますから、館山市費で充当するということには当
然であります。

県立移管ということとは仮りに今後推進し努力すると
いう場合に整備、拡充強化という問題については、莫
大な経費がかかると思つてあります。

實際問題として、四〇対六〇という分布状態からいって、道義的な問題といえますが、交渉してある程度の経済負担、基本的なものも、その都度々々ケースバイケースでなく、今後県立移管というものを推進するといえし、まーたら、それを実現する過程において、経費というものは、この程度か、担願えないかということと交渉する意思があるかどうか。

・市長（本間 義君）も答えていきます。実は今年三月、山口高校の工業課程を作るにつきまーて、千四百万円の寄付をお願いし、これを五カ年賦でいただく。こういうようなことになっておるのでございますが、そうして、早く整備して県立に持つていく。こういうことで陳情書も作っておりまして、来月、県会に市に合うように陳情したい。各町村長、署名をいただいでやっております。

町村長の方々も一諾にいつていただきたいということに考えて
おります。

なお郡部の人には二百円よりいかにだいておるそうです。
二五番(荻生田七郎君)了解いたしました。

一一番(石井正君)今の質問に関連すると思ひますが、
P・T・Aからもちうことは大へんいいことなんです。P
T・Aが寄付するからもちうたということでは問題があ
る。もちうの説明で教育上必要であると述べられ
てもちうたが私はやはり市がP・T・Aの寄付をす
るまでに至る前にどんな市の態度、交渉をもちうた
かということ、経過をもちうサレくわくお伺いいた
いと思ひます。

これは今後いろいろなうような問題が起きると
思ひますので懸念してお伺いするわけです。

・教育長（工藤和平君）に、今、市費向は寄付金をもら
ったことについて、どういうふうな交渉を見たかという市費
向のように思います。が、委員会としては、P・T・Aから、
直接寄付をもちぐということでは、できないわけですが、い
ます。むしろ、我々、窮状は校長に訴え、校長から、校
長からいけば我々の方で考えようということ、校長
自身、P・T・Aの役員並びに総会に、わかり、ま
るめた事柄でございす。
我々、態度として、寄付をせよということでは、できな
いところ、でございす。今後、もう、こういうことはいまし
せん。

・一番（石井正君）そういたしますと、P・T・Aが寄付しな
い、建てられなかった。先ほども小中学校に非常に
かかっている、で、釜山高校まで回らなかつたという話

があつたわけだが、小中学校もあまり行き届いていない。もし、P・T・Aが寄付しなかつたら現在の教育をどうしてやていくかということが問題になる。ですから、私は、P・T・Aからどうしても必要だから建てろということでも申し入りがあつたので、そのときに市が我々の方と一々この態度というふうなものがあつたと思つたわけなんです。くひからもらつたということでは問題がある。

こういう意味なんです。がわかりますか。

・教育長(工藤和乎君) 館山高校はさう説明申し上げましたように教員五七名を擁し、まゝ、人件費を中心にした高等学校費が年々増加の一途をたどるわけだ。ぐざい、まゝで、義務教育優先という立場を取ります。以上は、これらについて何らかの策を講じなければならぬ。

というのは、教育委員会の一致した意見でございます。従いまして建物もさることながら教育の内容を充実するには、人件費の上りを何とか少なくせねばならぬのでは、ないかということにつきまゝ校長においても相賛したわけでございます。

かような観点から校長も我々も努力を以て見ようといういきさつになつたわけでございます。その金をもらつたから、それをほかの方に回す、というところではないかなつたわけでございます。

・一 番（石井正君）話がわからなそうですが、要望を市の方にお願ひ下さい。

ただ今、小・中学校に充実を以て、高等学校に回つたとなつたというけれども、この間、文教委員会でも回つたときあまり整備されてない。危険なものが増くさんある。

そこで今年の予算の中に、二見えますが、地元が負担を半々なり、三分の一なりすれば、そのものが建つというふうな点が非常にあります。

これは根本的に問題がありますわけで、市とーては、やはり年次計画を立てて重点的にやるべきであると思うわけです。

地元の力があれば、できる。或いは、地元のP・T・Aなり、議員なりが先に立ってすれば何とかなる。ところが、だまっているところはならないのだ。実際には、非常に危険なものを持ってあるだけいども、何にもならない。ほかに、先にやるという場合がある。

これはやはり教育上、問題であるし、市とーても、根本的に間違っているというふうに考える。

この点、市の方で強く要望いたします。

重点的にいへども、年次計画でいっかりやってもらいたい
以上。

・市長（本間譲君）校舎の寄付受け取りにつきまゝ、
こんな金を出してもらっては日本でもこういうところは
ないだろう。たまげた。といった。
又からは一つも取っていない。一〇年位前に学校債か
何の発行した。その金の利息とわいろんなもので、金
があまりあってやった。というんです。
又は一銭も負担していない。

百万円もするものをP.T.A.が寄付するものというのは、日
本一だと思つたんですが、話はそうではなく、一千万の当
時のものが利息がついたり、あつたうでやった。こういうの
はさうです。それから、こういうふうに見ると驚きますけれど
も、基本的に市が裏書きをしてもらった学校債を発

行いたということなんです。

・議長(黒川佐太郎君)おはかりいたします。

本案は、質疑を打ち切り、討論者略原案通り可決いたしますことに仰異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)仰異議なしと認めます。

よって本案は、原案通り可決いたします。

暫時休憩いたします。

午前十一時四九分 休憩

午後五時四〇分 再開

・議長(黒川佐太郎君)午後、出席議員数 三四名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

会議の時刻も迫りまゐつて、時間を延長いたしたい
と思ひます。

こゝに於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よつて時
間は延長さへまゐつた。

暫時休憩いたします。

午後五時四二分 休憩

午後六時五分 再開

・議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きま
す。

日程第八議案第七三号、議案第七四号を上程いたします。

。一一番(石井正君)館山高校の県立移管について中實問います。

一月二八日の市会において承認をしておりますが、その後、本日までどんな経過できておるか。並びにその見通しについて中実説明を願いたいと思います。

。教育長(工藤和平君)お答えいたします。館山高校の県立移管の問題につきましても、館山高校県立移管促進協議会というものが、運動推進の中核になりまして、これは田村市長でございまして、関係諸団体や長が一緒になりまして、柴田知事や時代から加納知事まで、いろいろな請願にわけてございます。

去る一月の議会でもその問題が論議され、もっと強力に促進をすべきであるという観点から、先般から、安房郡市の市町村長、並びに郡市の議長や署名をいたしまして、

改めて新しい知事でありますところ、友好知事にい
 を強かに清願する。こういうことになつております。

実はこう下旬にいくはずでございまして、果会が来
 月の下旬になると思います。なお、そう見通しにつか

しては、教育委員会が全員で参りまして、ときには、柴
 田知事も加納知事も努力する。という言葉でございま
 したけれども、当面の責任者である山下教育長は、
 目下、急増対策は追われているので、急増対策の終
 つた四一年度あたりには努力ということになるのではな
 いかという説明をいって参りましたけれども、我々といひ
 しましては一日も早く、館山高校が県立に移管になる
 ように努力せねばならぬ。こういうことでございします。

二番(石井正君)先般来、文教委員が各学校を回り
 まして、教育担当の方は、やはり存じだと思ひます。が、整

備が完全でないわけであつて、本年の需用費が二百万円
の増ですが、物価の値上りでほとんど関係がない。一
も、館山高校の問題については、約三年間に一億です
め、予算が必要だということを聞いてゐる。こゝまゝいき
ますと、どうしても、小中学校の教育に、のりせぬ。こ
ういふ点で早急に県立移管の問題に力を入れたい。
だいたい、こゝ点を要望してゐます。

一六番(岡武夫君)庶務課長さんに伺います。

議案オ七三号、七四号についてであります。通算の議案
説明で、四社から見積りを取って一番安いところに随
意契約するということとでございまして、結構でござい
ますが、そこでお伺いしたいのは、いかに安くても品
のわるいものを納められては困るのでありまして、四社
に対して同じ会社の製品について、見積りを出させたいか
どうか、という点。

を一つと、それから一番安いところに注文するわけですが、
 ら、実際に安く買えることになったと思います。

それについて、おそらくそうだったものは、カタログなどがあり
 まいて、定価表というものがあると思うのですが、そのカタ
 ログに書いてある価格と実際に契約する価格と、ど
 う位安くなっているか、その二点について伺いたいと
 思います。

・庶務課長(千場伊右エ門君)電気料教材については、
 文部省の指導要領、電気科編に示されており、また
 化学工業科の教材については、全国の高専学校の
 校長協会で協議してきめられたもの、それに基きま
 して、館山高校で検討いたしました。見積り合わせ
 ときは、四社を呼びまいて、電気科及び化学工業科
 の教材について、一つ一つ品目と、それから業者、製造会

社カタログ、そういう面について一つ一つ検討いたしました。
見積り合わせを行いました。

その結果、電気料については、予定価格が九十万五千四百二十円のところ、最低価格が七十九万七千二百二十円で、予定価格よりも十八千三百円安くっております。それから、化学工業料の方では、予定価格が百二十一万七千五百円のところ、最低価格が百五万七千五百円で差引き、十六万円、安くっております。

・一六番(岡武大君)了解いたしました。そこで、私、教育委員会に要望いたしましたのであります。監査をしておりまして、まさに見受けることでございますが、学校の方で同じ備品を購入することがございます。

そのときに買入の価格がとく、カタログに書いてある値段で買う場合がある。そういうときは、私いつも、我々個人

がものを買う場合でも、カタログの値段で買うはずは
ない。少しでも交渉して、一割か一割五分まで
買うのが、ふり前ではないか。学校だけが、カタログの値
段で買うのはおかしいうこととを申し上げたことも
ある。ですが、この議案でやったように簡単にもうでも
安く買入れるということにや留意願いたいもうござ
います。

学校備品費を見ても、小学校関係で五百万、中学
校で六百五十万、高等学校で八百十万、幼稚園もい
まで入りますと、年間二千万の備品を買うことになら
うございます。

仮りに一割う安いものを買っても二百万有効に使え
るとか、教育費が少なくていいことが出がちでございま
すので、この点、十かや留意願ってやっていきたいと思います。

。五番(田中祿郎君)教育長さんにお伺いいたします。

議案才七四号で電気科教材をお買いになるという事は結構なことでございますが、電気科の実習室といひますか、まだ配線の工事が出来ておりませんが、配線の工事は、今後やるつもりですが、手続きを取ってやらせますか。それをお伺いいたします。現在の状態では教材を買ったにしても配線の工事が出来ませんと。その意味がたい。状況はどうなっておりますか。それをやり説明願いたいと思います。

・教育長(工藤和平君)ただ今の質問でございますが、配線の関係は、三八年度の予算でやることになっておりますので、最近行う予定でございます。なお工事が遅れまして、その分だけ子供の学習に不便を感じずるというのが実情でございます。これは、いろんな補助金との関係等

もございまして、いふまでも、できるだけそれらを勘案して、子供に迷惑をかけないように特にオ一回の卒業生は、卒業年度に非常に迷惑をすうような事態に相なるうで、こうした関係におきましても、年度を早めて賜やる旋いまして、三六年度におきましても、比較的たくさん工事をして、関係実習にさしつかえないように配慮してございまして。

現在では、普通学級の教室にございまして、本校の理科室等を活用いたしまして、どうやら授業には、さうつかえなくできておるわけでございます。理論の方に現在重点を置いております。

五番(田中緑郎君)私らは素人でございまして、建築をやるとき、一諸に配線工事をやるといふのが、簡単にできるといふように伺っておりますが、建物ができて、その上に配線工

事をむえりになるという方は、予算の関係ですわ。

庶務課長(千場伊右エ門君)お答えいたします。

三十七年度で依りまうた校舎は、教室が三つと、管理室
が一つということになっておりまして、今年依りますところ
うに変電室、機械、工作室もありますわ、それには電
気関係の設備も一揃にいたす計画になっております。
五番(田中祿郎君)そうしますと、三十八年度の二十七万円
というものは、今度建ての棟の配線工事の費用とい
うことになるわけでございますわ。現在行ってみますと
教室の半分は、先生の室と機械器具を置いてある
室がある。そこにも電気がきていない。そういうことは、
あそこに電気配線を引かないということになるんですわ。
今度建った新しい建物ですよ。これがどうなっているか
ということも伺いたいのでございまして、電気科の教

室です。からむらん不便を感じずるのではない。全然配線がないというところで先生も困っているようですが、そのことなんです。ね。

庶務課長(千場伊右エ内君) 三七年度に建てよう不足か、ございます。が、それは今年の配線関係の予算からや、っていくつもりでございます。

五番(田中祿郎君) 三七年度不足かというのは何でございますか。今建っている建物は三七年度中に建てた建物でございます。ね。西の方のほう教室に配線がない。

あんな方が行って中見にひりますとわかる。電気の線がきていない。コードから取って使っている。あそこの配線

工事は三七年度、余った予算でやるということになるんです。教育長(工藤和平君) お答えいたします。あの工事は、三教

室、バホームルーム、教室でございまして、実験・実習の室

ではございませんで、三七年度におきましては、配線の考
えを持ちなかつたわけでございます。

もちろん最近の教室については、コンセント位、置
常道でございまして、普通の教室にも配線することは
えるべきでございすけれども、いろんな予算の関係で
思うようにやせないというのが、実情でございます。

従いまして、それを穴埋めするということ意味ではござい
せんが、あらかじめ学校当局と打ち合ひをいたしました
実験・実習をするに際しては、本校の理科室を当分
使おうというところでやっているわけでございます。

・二番（石井正君）質問を誤り取ってあるようですが、
学習用のコンセントとか配線という意味ではない。
全然、新校舎に電気が通っていない。だから、田中義
賢の質問はなぜ建物を建てるときに電気を通さな

かつたが、文教委員会で行ったときに、そういうことがあつて先生も困つてゐる。隣りの林の線から自分で線を引いてきて取つてゐるわけです。その点の質問をされてゐるわけでも明確に答えていたんだから。

・教育長（工藤和平君）三七年度におきまゝでは、その計画が突拍がなかつたわけでございますので、三八年度の予算で回ります計画でございます。

・五番（田中藤郎君）さうす計画ならそれで結構でございます。家を建てて電気がないということも困ると思ひますから、なるべく早くあそくに配線の工事をしていただきたいと思います。さう希望いたしますので質問を打ち切ります。

・議長（里見佐太郎君）おわかりいたします。

本案は討論者略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 此異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さいます。

日程第九、議案第六号を上程いたします。

一三番(菊井敏博君) 観光費についてお聞きしたいのでございします。

さううの説明で海岸整備のためということ伺ったのでございします。これに対しては異議をいさむものでございせんが、内訳を知らずにはいけません。過日建設委員会の視察において北条海岸を通りまわったところ、北条桟橋波打際附近に大きな板物等が約深さ二尺、二、三平方メートルにわたって目をむかうようなものが、私には感じられなくてあります。この予算の中にそれが含まれていさかどうか、お聞きしたいので

ございます。

・観光課長(小沢正治君) そういうような事態でございまして、
今年には非常に海岸清掃に従前、三倍、五倍とい
う人夫がめれるということで常駐の人夫も当初計
画では天名でありまして八名にふやしまして、
やはりたゞ今おおせが正すように惨状目をなま
うような事態を繰り返さぬとも限らないという
ことで清掃の賃金を追加をお願いするということで
ございます。

・三番(菊井敏博君) お聞きしますと、清掃のために人件費
を取ったということ伺ったのでございしますが、私の見た
範囲では非常に除去するものに困難だと思ひます。
現在、館山市におきましては、観光設備が金くない。
収容力もないから、たゞ一つ、海岸線というものが

館山市の誇りと残る。そのために海岸の清掃というものは、絶対必要だという点は皆さんもよく存じだと思っています。どうなり式にということでも、観光地、海岸というものは、四季を通じてやる必要だと思っています。その面におきまして、桟橋附近の汚物が除去できませんと、海岸がきたないために遠来のお客が泳ぐという、非常な被害が予想されるのであります。

このようなことにありますと、館山に避暑に来て満足感を覚えたりして不快さを感じ、こゝがよそに行つて悪宣伝されるということになりそうです。館山市の観光面目がつかぬだと思っています。そういうことから是非ともやらないでください。こゝがやれなければ、こゝような追加予算を取つたために、かえつて表面だけきれいになり、実質

的に泳ぐ場所が乏しい。これに対する被害が出たという場合に観光本来の姿からはずれる。すなわち市民に対する欺瞞ではないかということを感じるのでございますが、この除去に對します方法等をお調べ願いたいと思います。

・観光課長(小沢正治君)もその状況は、實際に見ていたのだが、とりかたないわけで、一三番議員さんもとくと、や、覽に口をいふと思つたわけでありますが、いろいろ私にも配いたしまして、確かに潮が満ちると見え方かなり、そんなに知らずに入つてけをしますということを非常に憂へたわけですが、そこであそこが部分だけは早急に清掃しなければならぬ。はやく仕上げる方法ということもいろいろ検討いたしまして、自衛隊のブルドーザー、耕耘機による作業とかいうものを

検討したいしよーだが、実際に携わった方にちう意見も伺ったわけでございす。カワイアうどう沼の中に入らずに竹う切はし、ホッ根つて、或いは、陶器類う破片、そうーにもうは、どうーても機械力を頼ることは、不可能であつて、人の手によつて、掘り出すより仕方がかいということになりまーて、一昨日からでるだけう人員を動員いたしまして、目下鋭意清掃中であございよーで、本日までには約五分の三をこわしよーで、そうゴミが大体、大型トラクで一五台程度上つてゐる次第であございす。これは、早急に片付けまーて、あすあさつての二日間ではだーで入つても危なくないようないこうような計画でございす。

・一三番(菊井敏博君)まことに結構な話を聞きました、私も安心したのでございす。

ひち、地元の人の話を聞きますと、汚物清掃のゴミを四日間になくて放置されておりました。悪臭を放つという状態であつたのでございます。こういうことで、館山市の海岸を見にくるお客さんに不快な念を感ぜさせ、夏がきたから掃除をしていただくという感じを与えて、さうと思つたのでありまして、市として速かに一貫して処理するということに是非とも専念してもらいたいと思ひます。

・三五番(松本藤太郎君)本年度一六石です。勸奨返取着が出ておるわけでございますが、課長さんの先日の申談ですと、今回に限って七カ月の所定返取金以外に特別の手当として支給する。今回限りということがいわけまいに、どういう理由で今回に限って支給されるのか。もちろんこれは申説明によると、安

年あるということが予想されるわけですが、来年はそれほどはないというように考えてよろしいのか。この点について、それから、非常な長雨で市道が非常に破壊されておられますが、追加予算を見ますと、原材料の四十五万ばかりでございますが、この四十五万で大体、市道の破壊というものがまかなえるのか。

それから、いま一つは農道ですが、農道の破壊が市道以上にはなはい。こういう現状でございますが、これに対して何ら予算措置置がないけれども、当初予算上において、何とかなおりますかというか、お尋ねいたします。

さらに選挙費でございますが、これは三項の県会議員選挙の更正だけでございますが、館山市は、市承知のように、公明選挙の都市宣言をいたす

なおりますし、前回の選挙につきましても、啓発運動費として、幾分、なにがしかの支出をしたわけでございます。

来月は、農業委員の選挙もあるわけでございます。市会とか、県会という選挙とは違うからというふうな安易な考え方ではいけない。特に選挙のないときに、この明選挙の啓発が必要である。これは、一般市民が、そういうふうに感じてゐる。我々もそう感じてゐる。

この予算の中には、そういうものが全然ないけれども、啓発運動についてどうしようかと考えでゐるから、やはり、説明願いたい。

さらに選挙の重要性は申し上げるまでもございませうが、特に本日、六二号議案によつて、選挙の事務取扱いが書記長という格づけをされた。このように、秘書

課長の発言が有りまして、条例にはつきりと格づけをいたし以上、当然それに対する人件費というもうも出てこなければならぬ。選挙に対する今申し上げた啓発運動、格づけというものに対してどういうふうにも考えになつてゐるか。お尋ねいたします。

。秘書課長（小倉澄男君）松本議員のや賛同のカー点についてお答えいたします。

まずとらうて本年に限り七カ月分、月給をやつたかということでございますが、これは今までどうしようか勸奨退取を実施したこと、三二年に一回だけでその後中断してございまして、それを先ほどもや説明申し上げました、人事の新陳代謝とはかるといふ意味にございまして、どうしても高令者に勸奨大をいたしまして、退取していただくという執行部が

方針を打ち立てるために、この勧奨退職を実施する
ることになったのでございますが、本年は、三月の下
旬にこういうことを計画いたしまして、そうしてそ
れを是非五月一日の人事異動に合わせまして
配属したいということで非常に期日的に迫っており
ましたので、はなはだその対象になられた方にはお氣
の毒であるということで本年度に限り、七カ月分の
月給に相手するものを差し上げるというようにな
った次第でございます。

なお、これを今後やうないかというところでござい
ますが、これも、先般申し上げたのでござい
ますが、今後については、我々
取員の内規的なものとして我々は、大体、五
ハヤになつたら自然に後進に道を譲つて退いていくやう
な、内規的な申し合はせをくみに作つたのでござ
います。

おちよ、そんなめにそういうことをすれば、今後我々が
永年市役所に入りまゝで勤務いたしてありまゝでも
五ハタという目安を持ちまゝで生活設計をしていけば
これに對して何ら支障はない。というふうな方針を決
定したものとこういうふうなことをいいた方がござい
ます。

・建設課長(新井重助君)路面の維持の御題でござ
います。私ども維持・補修については極力考慮中
でございますが、何しろ總体的に路面が痛んでおり
ます。ところでこの補修につきまゝどう位う金がか
かるかということでございます。一応四十五万円
程度の増額で平々里の碎石を買ひまゝで五〇〇立
方メートル、その他規定の予算の範囲内におきまゝ
岩井の方面の割りぐりでもって大きな穴を埋りまゝで

その上に砂利、もしくは、碎石をカバーして有効な路面を作っているか、と考えるべきで、とりあえず、四十万とくにお願いした次第でございます。

これに今後豪雨が続きますると、この際はまたいろいろな方法を講じて、追加或いは更正をいたしまして、路面補修をして完全なものにしていきたい。こういうふうな考えております。

・農産配計課長(伊藤幸太郎君)農道の面でございすが、今ところ、大きな農道についての届出といいたうな、そういうものは、参っておらないわけでございます。ただし、私どもといたしましては、各農協にお願いいたしまして、このような被害について、取り調べを一応お願いするわけでございます。

五、六の農業組合からは出ておりますが、全部まとも

おりませんので、まことに次方に手を尽して参りたいと思
つております。

ただし、現在まで、二、三の小部分の屈曲がございますので、
それらにつきましても、土地改良費におきましても、不時の
工事費としまして多額の予算を持つておりますので、その
範囲内で現状といたしましては、まかなつていけまというよ
うな見通しでございますので、追加予算等の措置は
今回は至らなかつたわけでございます。

・総務課長（山口実君）選挙の啓蒙運動の点でござ
いますが一応今年は当初予算におきましても、選挙
啓発に七万三千八百円計上してあります。

さらに農業委員の選挙につきましても、当初予算
におきましても十八万八千五百円計上してあります。

それから、職員の手料をなせなくて格づけいた以

上増額一なめたかというやきに見てございますが、
現在の確め書記長は格づけ二等叙でまゐりわけで
ございます。二等叙の格でもって当初予算に入件
費が廻まらなかつたので追加としては計上いたしません。
三五番(松本藤太郎君)退職者に対してそのや説明ですと
五五文から五八文までの間においてやめていくのだというこ
とを三二年以来初めて出た。一三人の人がふいに
出されたから七カ月やる。

来年度の人はこういうことを今知ってゐるのだから、出さなく
ていい。こういうふうに取りやる。そういうことで、永年勤め
であったところを去っていく人に対してマ、そういう感情でいいわ
どうか。ここに大へん問題がある。びつくり手当りのような
もので七カ月というものを出す。来年度の人はいいという
ことで私は、この点は納得できない。

それからいさ一つ、今後は、自発的にやっていくんだ。自発的にやめていくんだ。それもある一方、当局者の方でそう考えてゐるだけだ。勤めてゐる人はそうではない。その点をもう少し、秘書課長さんは、研究していただくたい。自発的なんだから、いいんだということではなく、あんなの方で、そういう方針を打ち出したというところで、勸奨であり、さらには新陳代謝、いろんなそういう面を理由でいうならば、勸奨でなく整理整頓取だ。最高な手当を出さなくはない。それにまあ知らず、そういう一つの慣例として、内規的なものとして、自発的にやめていくからいいんだ。これは、人事管理の面から、いって残念なことと思う。そういう点について、もう一ぺんお考えを述べていただくたい。

それから、選挙の点でございしますが、十萬八千円、という
啓発運動費、これは使つてないと思ひます。

支出の面ははつきりわかりませんが、よく検討して笑のある
ものもやつてもらひたい。これを私はお願いする。

いま一つは、そういう重要な選挙を取り扱つてゐるのであ
りまして、今回格づけをするという。一々も選挙管理
理委員会というものが、必置になつたというものと、こ
う系列を作るのなさいんですが、議会事務局長
とね、課長とね、というものがあつた。それと同じように格
づけされた場合には、一つ一等級なら一等級、二等級
なら二等級という、そういうものを今後規則の中に入れ
るかどうか、その点伺ひましよう。

そういう点で、上にあらやうきたから、法律でござつた
からといふことでなく、実際に選挙の啓発運動、選

拳というものの重大性を特に鑑山市は公明選挙推進都市としていくならばそういう点も実のあることをするべきだと思う。そこに何か大へん大事なものが抜けてはいないか。今、秘書課長さんへ考え方についても同様であります。

そういう点についてもう一ぺんお答え願いたいと思います。市道については大体、今ところでは四十万もの円でやっていく。さらに雨が降り不足なら追加更正をしてもやるということでもそれについても骨折り願いたい。

農道については、私に聞いたところではなくなっているところがある。やってくれるのかしら、やってくれないのかしらという不安な考えをもってある方がたくさんございますので、積極的にやってやるように措置

をうけていたのだと思います。

市道、農道については担当課長さんの積極的な努力を期待いたしまして了解いたします。

・秘書課長（小倉澄男君）お答えいたします。私が先ほど申し上げたことについて、多分、ご理解がいかぬかったことを付け加えて説明いたします。

まず、オ一点でございますが、実は、今回の勧奨退取に際しましては、二本立の優遇措置を講じました。それは、まず、根本的な優遇措置として、今後ずっと永久にやっていると考えておる優遇措置でございますが、現在、熊山市に勤務いたしておいて五五歳以上であって一〇年以上勤続している者に対しては、最高額の退取手当を差上げたいということでございます。それを実は、現在、熊山市が加入いたしておきます。

取手当組合では、そのような率が出ないのでございます。
しかしながら、国家公務員が実際にやっております
勸奨の場合における取手当において、最高額
の取手当を出してある。この最高率まで持
つていこうということで、差額を追加更正予算に計
上していただいた次第でございます。このたびは
申し上げました七カ月分という、これは、やはり本年は
その方針を急に打ち出したということである程度
期間は、その月給をもらうことになって、就取の準備を
しなさいということでも、七カ月分を支給いたしました。
なお、二点の自発的という言葉の点でございますが
これは、実は、あくまでも自発的だからといって、我々が勸
奨しないということではないのであります。該当者
に対しては、勸奨をいたしまして、そうして十分話

一合った上で納得のいくところまで退取をいついたかく
 というものでございす。今後もそういうことはやって
 いきたいと思っております。

自発的という言葉を私の説明が足りずに誤解
 がありました。是非訂正していただきたいと思います。
 それから書記長の件について申し上げます。

これは実は自給法によりまして、選挙管理委員会
 の定数におきこする身分でございまして、例えて申
 しますと市の取員の定数については、事務吏員技
 術吏員というような身分上の呼び名でございまして
 こう身分の着を現在市規則によりまして、これは
 市長権限で決定できする規則におきまして、補取
 名を付け、補取名に一等級から五等級までう格づけ
 をやっておるわけでございます。

だと思ふ。でありますから、今後来年やめる人においても自発的ということとは、取り蹴消して五五以上でやめる場合には、勸奨整理退取と一てう条項を適用する。そうしてさらに差額といひますか、そういう面については、こういう条例で出ていくというふうなことが出てくるならば、私はいいと思います。

全然、今年やめる人と来年やめる人と退取金が違ふということでは、あまりにこういう大きな問題について、はなはだ残念だと思ふ。それでもいいのだというふうにみんな考えているのかどうか。

それから格づけでございしますが、秘書課長さんという規則において、まあといううは、格づけし、系列化しないだから書記長というものは、二等でなければならぬのだということなんです。今お三人が二等だということだ。

です。格づけをし、条例を作った以上は書記長というものは人によつて一等であり、二等もあるということではない。規則において、一等級の書記長、二等級の書記長というものが、規則として出てくなければならぬ。それを私は伺つておる。

秘書課長（小倉澄男君）　ただ今の才一点の七カ月の件でございしますが、これはつきまゝでは、あくまでも市の方針として取りまゝなことは、今年限りということにございしますが、これは、今後運用にまきまゝでその本人の退取条件の点におきまゝで、いわゆるいろいろな本人の利益上の問題が非常にからんで参ります。ということに例えて申し上げるならば、九月にその人の退取が五八才という年令が発生したときにもう二三才いふば、本人はもう一年分の退取手当がもらえらう。

二 三
二 三 五
五
そういうような個人的な環境の差については、今後十分勘案いたしまして、勸奨を実施していきたいと思つております。

なお、書記長の件でございますが、私の申し上げたところが、そういうふうにも理解いただけなかつたのでございまして、重ねて申し上げますと、書記長というものは身分であり、市には市長の権限によります規則が制定されてありまして、それには、現在のところ、書記長というものは、二等級という格づけがしてあります。

課長は一等級、そういうふうな格づけがなされております。三五番（松本藤太郎君）ですら、私はそれを聞いてゐる。

法のもとに必置制となつた。今日、条例において格づけをすむという書記長という名前が、出た以上、規則において、あんなのいったように一等の書記長というものが

なくてはいけなけれども、そういう規則を依るかどうか。条例として出すうだから、規則の方もそう一ぱいばつらないうではないんですか。こう聞いておる。

秘書課長(小倉澄男君)お答えいたします。私、研究が足りないでございまして、書記長であるから必ず、二等級でなければならぬという……

・三五番(松本藤太郎君)助役さんにお尋ねいたします。

今、何回もいいさうだが、こういう法のもとに格づけをし、条例化して必置制にわたったという現実からいって、特に釧路市は選挙に対する責任という点からいっても、今までの人は別として、今後一等の人、書記長にほるかもしれない。こういうふうな格づけをして条例化して現在、この条例に従って規則も二等級ということがあるけれども、一等の書記長があり、二等の書記

長があるというふうに改正していかねばならぬので
はないか、こう聞いてゐる。これに對して助役さん、中
答を願います。

・助役(小出武男君) ただいま、松本さんの中意見非常に
理解ある中質問でございます。ただいまの中意見
のように非常に選挙の問題が大きい評価されて
きた。そのため、書記長というものを法令化して設
けるという趣旨は、選挙部面を重視したというふう
に解釈されると考えます。

実は、この点につき、以前で、経過を申し上げますと、そうい
う話が出たのでございます。格づけ規定を改正して
書記長は、一等、二等と入れて、二等級で頭打ちにな
なく上げたら、とうとうという意見が出たのであります。が、
他、取務と比較いたしましたとして、例えば、農業委員会

う事務局長、ほかに若干ございますが、こゝらとて検討
もいたしました結果、一応、この際は、こゝに置いて
将来は、実は、検討の余地を残してあるわけでござい
ます。今後において検討いたしまして、選考の重
要性というものを取り入れて見たいと思ひますが、一応
今回は、規定には、訂正いたしませんで、現行の二等
級でございまして、考え方といふことは、そういう
含みがございしますことを、この際、報告に代えて、お
答えいたします。

三五番(松本藤太郎君)それなら、わかつてききました。ですから
人は、いつておるのではなく、現在がそういうことになった
から、一等も置かざるのだ。検討する必要はない。
二等級がいったら二等級にするんですが、それを私は
いう。ですから、法がさううきうきではない。水防の

点もそうだ。右いものを今になって出てきておる。こういう点について残念なことが多い。今後一そうこういうことを議会の中から言わねばいように説明をよんだの方からするようには是非願いたい。

今申し上げました規則の点については、一等級というものは必ず入るということではないければ、熊山市の選挙というものに対して、当局の考え方というものが死んでしまう。そういう点をもう一ぺん確認いたしたいと思ひます。その人を確認しろというわけではないんです。

・秘書課長(小倉隆男君)も答へたいします。格づけの点でございしますが、その身分にあつたように格づけということにつまみ、大いに今後研究いたしまし、将来改正をしないといふことは考へております。

・三五番(松本藤太郎君)一言申し上げます。簡単に済むものを私、質問が悪いかもしれませんが、私なりにいいと思つてやつてゐる。もう一つ、課長さんに私興奮さうに私からいうけれども、あんたは、退屈、提案理由として私は、人事を担当してゐる者だ。今回、勧奨、退屈させると市長さんの決断を経てさうしてやりました。あんたがやるのではない。市長がやる。市長にいわせてあんたがやるのだ。そういうところに今申し上げましたように法というものができて、ここきて日々目を見るのに日数がわかる。そういう点について今後、注意して我々に教えてくれるようにしていただくたい。その点を特にお願いしておきます。時間、長いのでこれで打ち切ります。

・一番(吉田勇治郎君)五八文というこについてお伺い

ーたいと思うんですが、いわゆる五八ヤになつたら、来
年度から遠慮なくやめていただくということに取算の
内規になつてゐる。こういう説明がありまして、たゞ、諸般
の情勢から五八ヤという年を切ることも、當を得て
いるかどうかということに疑義を持つ者、一人でお伺
いするわけですが、私は後進に道を譲る、或いは私
場に新風を送るという考え方からいつたら、なるほど
結構なことと、めように信ずる者ですが、ーかし、今、
個々の生活環境は非常に改善に改善を迫ら
れてゐるものであります。

現実には生活は改善され、あつたさへ、何人も教育
をうけねばならぬ。ーかるが故に、どう家庭にな
いても表現が當を得てゐるかどうか、わかりません。家
族計画というものが徹底しつつあるやに見えるので、

あります。これはいわゆる産見制限とかいうようなことで人的資源にも困る時代がくるのではなからうか。かようなことを私は危惧する者であります。

一例を申し上げるならば東京みどりにおきまゝでは、とにかく人的資源の見通しがつかない。かような観点から今退取する者は報償金は出さないぞ、かような鎌山市とは逆う見方をしておるであります。

この点において私もさうことを用いた場合に家族計画画が今後より徹底していくことは当然であると思ひます。一めるに人的資源の不足を生ずる。かように考えてゐることから五八五という一つの基準を定めるべきかどうかということについて、疑問を持つ着う一人であります。

なむさら過去にさましては、五といひて

おりこーたが、それよりもはるかにまた六五ギという
ような寿命を数えておろうであります。こゝ点に
おきまゝで、當時の人生五々年といったような感賞
を持った定年制のあり方ではなからうか。

こゝに五ハギのところを引くというような
考え方は考えるべきではなからうかと思う者であ
ります。

今後、こゝ点でやはり働き得る人、働く意欲のある人
については、環境を新す限りに置いて、中奉公していな
ばくというふうな、そのようなゆゑをもつて解説する
が本来ではなからうかと思うのであります。

その点におきまゝで五ハギになつたら消えていくという
考え方に、おいてもう一回当局の考え方を承けり
たいと思つてあります。

秘書課長(小倉登男君)お答えいたします。ただ今、吉田議員におっしゃるような東京を中心といたしまして、おっしゃる千葉、木更津あたりまででございますが、そういう市においては、非常に人材が乏しいところがあります。市の取置は柏とか、市リ、そういうところにおきましては、我々も求めています。市は、市の取置を採すのに容易でない現状でございます。

しかし、館山市においても地域社会の状況でございますが、市が取置の採用をするという場合に非常に多くは応募者がございまして、そういう心配はないということから、やはり新陳代謝を行うということとでございましてあります。

五八五という点でございますが、これは全国的な取置の統計を取りまるところで、大体五五五

を中へといひまして、退取勸奨を行なっているとい
う市が大体四五%位、その他五八%を限度といひ
しまして、勸奨退取を行なっているところが二〇何%、
六〇%を中心としてやっていると、ところが同率の二〇%
程度だと記憶しております。

そういうことから、鑑み市の現状を勘案いたしまし
て、五五%でも早過ぎるということでは、今いうように人間
の寿命も延びたという点を勘案いたしまして、五八%
が適当であるということとで、内規的に勸奨を、いくと
いうような線と決定した次第でございます。

一番(吉田勇治郎君)社会情勢は十分に話合いを
されておられるような中、答弁であります。が、要す
るに五八%で整理する、という線がいろいろの事務
上の問題が出た。かように私は承知いたしますが、希望

するところは、釧路市が近き将来、人材に苦むような
釧路市周辺を依り上げていかなければならぬという
前提のもとに、こういう点を要望いたしまして、賛同を
打ち切ります。

一、番(辻田実君) 今の賛同と松本議員の市賛同に
関連してお伺いしたい。釧路市に取資の研修という
ものはあるのかどうかということが一つ。それから、今回、
一人の方が勸奨によりまして、退職されたわけですが、
いますけれども、これから人の補充というんですか、そ
うは、どうやってなされておりますか。現在、完全
にできたかということについてお伺いしたい。

三番目に人的資源というものは、非常に尊重され
ておる中におきまして、来年度以降は、五八ギになつ
たらやめてもらうし、また勸奨していきたいということ

まいておりますけれども、定員というもうもからんで今回やうな一人というたくさんの人を数正理一な場合に事務上支障を来たさないか。さらにはどうよと半年とか勤めた場合には要するに恩給の額が違つてくるので考慮するということでごさいます。したが、そういう例外的さらに人的資源の欠乏という形で五八やう勸奨退取というものが、ひきついで五九や、六〇やということか、一人でも二人でも出てくるとさっき課長さんがお答えにたりましたように五人やにやめるのだということか、自分場合には何とか逃げらるゝではないかという気持ちが出てくると、さつさいったやうな趣旨というものについて、食いの違ひが出てくる。そういうことでは、松本議員の質問の趣旨に對しても、やはり考え方がわつてくると

いう点を中心に配するわけですが、その点についてどうお考えになりますか。や質問いたしたと思います。

。秘書課長（小倉澄男君）お答えいたします。市の職員
の定数についてはございしますが、館山市職員定数条例が
ございまして、そこに市長の事務部局の職員をいじめ
ていたしまして、議会の事務部局、教育委員会、事
務部局、各部局別に二四〇人の定数がございます。
一人を補充はいつかということではございしますが、現在
は、勸奨を兼ね合わせることで事務改善を実施してまい
ますが、現在、当面する問題といたしまして各課にござい
まして、うちの方は此ーいうだ。うちの方に職員をくれとい
うような要望がございしますが、私の方といたしましては、
それに対してあなの方は職員が多過ぎるのではないかと
あなの方は職員が非常に少ないということに対して

はなはだ不勉強で申しわけないでございしますが、その
いも決定する尺度がございせんので、私就任いた
しましてから、何とかしてこれをやりたいというふうに考
えております。

ところが、事務改善という問題がくくに出てきまして、
全員で事務改善をして事務量の把握を——という
ということでは、今、事務量の把握並びに現在の各
課の状況が正しいかどうかというところにつきまして、脱
意検討を続けております。そういう状況でございますの
で、それをある程度待ちまして、補充をしていきたい。なほ
現在一六名もおりますので、各課において、今までや
ってあったものが、一人々を減らすでございすから、実質
的に申しまして、非常に少なくなっていると思ひますので、
くくを何とかカバーして、いって申し上げるならば、八時

間働くところを一所懸念命働いて、そうしてお互いに
取員のプライドを持って市民のためにサービスをして
うじやないかという決心で取員一人となって事務改善
に邁進してまいります。

なお、今後五ハヤというものをあくまでも焼けるめと
いうことでございしますが、現在のところでは、五ハヤを
ラインといたしまして、実施していきたいという考えで
まいります。

。一番(北田実君)大体了解いたしました。先ほどもいろ
いろ質問の中で出ておりましたけれども、今回、場合
整理が先になりました。行政整理というんですか、機構
の改革というものが、あとになっておるように伺ったので、
あります。こういうようなことをすると、混乱もする
し、何月間でよろうとも、市の業務において、十分に

いき届かぬで困るというふうな意見が若干なりとも
 出るということは、市民に対しての市行政というものが、
 手ぬかりになるわけでございます。この点については
 行政整理機構の改革というものをやった上に立って、こ
 ういう人についてはやっていた方がいいというふうな形
 が出た中で措置されるように要望したいということです。
 でございます。そういうことでやっていたのだと思いますが、
 それからもう一つ、今度の場合に勸奨退取の整理に
 よって退取めというふうな点について、かなり問題があ
 った。実質的には整理でやめたということになりはし
 りないか。その点を勸奨という形でなく、七カ月という
 アルファを付けて、補いたいというふうに伺います。た
 だ、その点については、明らかにさしきょうで、そういう点
 については、整理なら整理という形の中で出さず、や

めていく人についても、本当にすつきりやめていかねるよう
にしたいなだきたいということも要望をいたします。

二三番(中村省吾君) 論議になっております退取者の
点につきまゝして、今まで賛成の意見や答弁されておる
中で、やはり賛成申し上げたいと思います。

まず、カーに報償金制度というものを今後、退取者
の中で取っておるわけでございますが、いわゆる、退取報
償金制度を取ったことが、千葉県退取手当法なる
ものが整備されておらないから、こういうことになったと
いうことでございすけれども、いわゆる国家公務員法
になける手当法における一々年以上勤続者が五条
まで引き上げるといふような、このことが、手当法、組合
の中で、是正されるものかどうか、その見通しがあるの
かどうか、またどうように働きかけるのか、そういうことも

の「見通し」をまずお聞きしたい。

それから、国家公務員におきましては、勸奨によつた場合、最高う退職手当がもらえるのだということをおっしゃられた。その最高というのは、何条が適用であるか、これが一点。

一応、これだけについて、答弁願います。

・秘書課長（小倉澄男君）やむを得ざる理由によりまして、報償金により支出をするために、本日追加をお願いいたします。

報償金に支給された理由は、退職手当組合との差額のためにということと、退職手当組合の条例が、今後見通はどうかという中、質問でございますが、私の方は早速一番始めに退職手当組合と話し合つたこととでございます。実は、私たちの方で、国家

公務員法のあつたときに見よーたところだ、一々年以上
で五ヶ月以上う着は、才五条を適用するのだという特例
がございよーたので、こういうもつた、退職手当組合に
適用してもらへるゝわということも組合の方になしよー
たところが、実は、こういうことゝあつてよろゝいゝわどう存
じよせんが、現在の退職手当組合では、こういう条例も
うたつてないのだ、こういうやうなことがあるとは知らな
つたよーうな回答でございよーた。その点是非、こ
ういうやうなものに今後は改正していただくといふ
ことは、要望いにて置きました。そうして今後、それ
について、退職手当組合については、検討を開始していま
と、考へております。

それから、一六名うち、一四名が才五条を適用で退職
手当を支給いたしました。

二名は普通退取、退取手当組合法におけるオ三条
の適用でございます。

・二三番(中村有吾君)手当組合の問題は見通一でござ
いますので了解いたしました。

なお、その点を早急に是正するよう働きかけを願
いたい。支給の問題でございますけれども、一四名
がオ五条を適用されたということとでございますから、
その点は整理、場合と同じということに理解してよろ
しうございますか。

・秘書課長(小倉澄男君)よろしうございます。

・二三番(中村有吾君)二名は普通退取である。三条です
から、そうすると、今市のいわゆる報償金制度という
ものを持ったという趣旨は非常に喜ばしいのであり
ますけれども、一々年以下二名ということになるのではな

いかと思いますすが、この人たちに對する報償金とい
うものは、七カ月だけに打ち切りになるという形でござい
ます。なお、今後このような姿が出たとき、七カ月分に対
するものは支給しない。従つて残るものは、こういった報
償金によつておそろくまぬわいてくるのではないか。差
額を支給するという形が取られるだろうと思います。
そういった場合に一〇年以下の人たちに市めらう報
償金が全然ない。こういう形が取られる。九年何カ
月、人は報償金が全然ない。一〇年一カ月の人は
相当な月数でいうならば倍額位になると思います
が、そういった恩恵を受けるわけなんです。一〇年
以上の人は二五年以上の勤続と同等の線まで引き
上げられる。一五年間、引き上げられる。九年何カ
月の人はぶち切りという姿が出る。そくに当然、

報償金というようになった一年にも満たないような
月数であっても、片や莫大の報償金を支払う、
片や打ち切りというアンバランスを生ずる。これに
対してどうお考えになるか。

・秘書課長(小倉澄男君)ただ今う質問にお答えいた
します。一〇年以上の者は二五年以上勤続した者
と同じ倍額になるということですが、これは倍
額ということではございませんが大体三条の五割増し
が支給されるのであります。ここに数々のことをちや
っと申し上げて見たいと思います。一〇年でやめた方
がどの位の退職手当をもらったかという。一五カ月分
いたります。一二年の者は一八カ月、一三年の

者は一九カ月、一七年の者は二六カ月、一八年のものが
二八ヶ月、二一年の者が三三カ月、これは概算で

でございます。二九年の春が四七ヶ月、というような状況
でございまして、これは、あくまでもただ今申し上げ
ました退職手当組合から参ります額と報償費
を要したものでございます。このような状況を要さ
しても一応我々は、大体退職手当というものは、現在
のところ、勤続報償的な性格をおびておるという観
念に立ちまして、ある程度、均衡が取りておるのでは
ないかと解釈した次第でございます。

なお一々年末満の者に対しては、悪い方ではないかと
いう点でございしますが、これは、普通の退職でやりま
すというところ、一々年末満の者に対しては、さらに、
普通ですと、九年の者に対してさらに二割五分引
くわけでございます。ということは一々年末満は
長期勤続と認めないという意向だと解釈する

うでございす。それは、退取手当 条例に特に
二割五分引き、九月を二割五分引きとす、と、九月
位になります。

さらに五年未満の者は、三割から四割位の減額を
規定してあります。退取手当組合におきまして
は、五五以上、勸奨を受けて退取した者は、この減
額措置を行わないで、たのびというふうなことに、
加味されてありますので、私たちは、このたび、一々年未
満も優遇をしたというふうに解釈してあります。
五年未満が三ヶ月、九年は六、七ヶ月、

なおこの際、中絶 明申し上げて置きたいことは、国家
公務員が一々年以上で五五以上の者が、勸奨
を受けて退取した場合にそういうような五条を
適用したかというところ趣旨は、条文中で読めます。

ところによりすと。いわゆる終戦直後、混乱した
社会情勢が個人的な理由でなく国家の理由にお
ききりて、勤務所を異動せざるを得なかった。

そういうために終戦後新たに取を得なければならな
いという人たちが出て来た。そういう人たちが、再就
取をしたことになりすと。で、その人たちが、ちやうど現
在、五五、五八、六〇、六二という勲賞を受けよう
と、年令になった者に対して、もう救済策だそうとございま
す。これも社会情勢が安定したうちには、今後将来は、
退取する場合には、一〇年未満で退取するといふ
ことは、予想されても非常に少ない例に過ぎない。な
い、そういうふうな観点のもとに、このたびの率を
決定した次第でございます。

二三番(中村省吾君)今、説明ですと、一〇年に対して

一五カ月、九年で六七カ月、相当増きがある。増きが出たそのものが一〇年、者は二五カ月、勤続者、線まで引き上げるといふことが原因となる。そのことはわかる。そのことも暫定措置と一七、そう一七、公務員法が設けられたこともわかっておるわけです。ただ私が言いたいのは、現実には、こういう差ができる、ということなんです。九年、八カ月、人と一〇年、一カ月、人と、現実にも、もう退職手当、というものが、片や六、七カ月、であつて、片や一六カ月、勤続年数においては、一年にも、満たないで、そういう差が出る。

市が報償金制度をお取りになり、もう一六、一〇年、未満、人も措置を取らなかつたか。法律で、こうなつておるから、という、ことならば、あえて、こゝで、七カ月、分とプラス、或いは、差額を出す、という措置は、いらぬ。

そこまで市が見るならばこの人たちも口ゼ見ひめた
かということがいいたい。

それから、なお説明を申いて参りますといわゆるもう
一点としよ—ては、先ほど定員のことでもって補充は
いたさない。事務改善を—ておる。従つていろいろ繰り
合はせを—てその中で事務を取っていくのだということ
お—しやうな。

なおまた松本議員の質問の中で七カ月分の問題に
つきま—ても、突然の云々というふうなことでそういう材
料があつたわけですが、そのお答えの中—から考えます
と、今回の勧奨というものは、明らかに行政整理の
対象としていふものではなから、こ—ように私は考えるわ
けでございます。

純然たる勧奨ではなく、明らかに行政整理の項を

適用すべきものである。かように考えますが、この点を
お伺いしたい。

・秋書課長(小倉登男君)お答えいたします。行政整理
理ではいいかという点でございすが、これはあくま
でも、整理退取はカ五条う適用を受けらる者は、
条文にうたつてございますように、定算の減少、二四々
名の定算を二々々名にするのだというふうなもの、
それから予算を一千万円う予算を八百万円に削
るのだ、そういう大きな方針のもとに予算を削減
場合においてうサ、これを整理と解釈するという
ような条文解釈をいたした次でございします。
あくまでも勸奨退取はカ四条に適用するものは
こちらからというふうな新陳代謝をうて、市の人
事機構を形成していくのだということに思を

表示いたしまして、話し合いのもとに結論といたしま
しては、解致していただくというのが、勸奨大退取はそ
ういうような勸奨整理という面をふくまなくても四条と
五条というふうに解致を分けて考えたいかとございま
す。なお、かしわがら、実質的には、五条整理と同
額と勸奨つとた者に対しては支給していい。今後
この五条の適用をさした者が一ヶ年以上勤続して
いるならば、適用していい。九年の者に五条を適
用しないかという御意見があつたのでございしますが、そ
れにつきましては、一応毎年々々やっていくということと
なりました。取員たちは、九年に満たない人であつた
と思います。五月三〇日に繰り延べまして九年に
しろ、そういうふうないわゆる事務上の操作といたしま
す。たまたまもうでございまして、それを一年までも繰り延

ばすということは、どうかという見解を決定いたしまし
た。今後、九月八ヵ月、もうが五ハ文になったよう
な場合においては、情状を酌量いたしまして、そういう
ような者は三ヵ月、四ヵ月、市に置いておるといふことは
へんの言葉になります。か、いていたでございまして、退取し
ていただくというふうなことは、十分考えておる次第でござ
います。

・二三番(中村有喜君)です。から、そういうふうな問題と成る
のは、報償金をどうするかという問題が将来起る
それから、私が再三というる、この一四名は、実質的には
五条を適用し、おるわけでございます。

報償金を入れば、そうすれば、行政整理の場合と
同じ退取手当をもらっておる。ところが同じ勸奨に
あつて二名の人は、これは純然たる普通退取で終

つてゐる。そういう点を市の方ではせっかく報償費と
いうものを予算化するわけですから、その中でなぜ見な
いか、こういうことなんです。それから、あと一年置けば
何とかということと五ハヤう先の定年制みたいな考
え方でございますが、課長は、温情を持って置いて
やるという言葉を使つた。そういう考え方があるから、
なお問題になります。五ハヤで十分納得ういふよう
に話し合うということとは当然です。定年制がない
ということに對して、それを納得いくまで話し合うと
いうことは、以上うきに對して、もう一ぺんお答弁
願います。

。秘書課長（小倉澄男君）　さういふいろいろの意見を
伺がわいていただきまして、ありがたうございまして。
また、ロベにいろいろな失言のようないふことを申し上げま

長(里河)佐太郎君)おはかりいたします。 本案は討論者略原案通り可決いたしますことに仰異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）
議長（黒川佐太郎君）亦異議なしと認めます。よつて
本案は、原案通り可決されました。

続いて、日程オ一ハ議案オ七七号を上げたいです。
 ・三三番(高橋文治君)議案オ七七号につきましては、異議あ
 りません。この関連したいしまして、税務二課長に

お尋ねいたします。

三八年の五月末の現在、例月検査報告を拝見いたしました。国民健康保険の保険料の未清額が、千七百四十万という膨大な額でございます。

この多額の中に将来徴収不可能なものが入っており、ますか、どうか。例えば、時効になったものとか、或いは納税者が転出してしまつたとかというものが入っているか、いいか。この点お尋ねいたします。

。税務才二課長(多田俊一君) お答え申し上げます。
市承知の通り本年の五月一日に事務改善が行われ、
して、保険料の徴収と市税の徴収とを税務二課の
方で担当いたしますことになったのでございます。

担当いたしますと同時に五月三日で収納滞りを行つた
たものでございます。これは、確かに国民健康保険の

方につぎまゝでは、繰越分については、相当額を滞納
がございます。大体、五月末で参りますと、繰越分

といひまゝでは、四百九十九万三千円、もちろんこ
は、一応滞納処分、それから、分納整理による執行停
止もございます。実際に私の方で取れないというもな
大体今申し上げまゝだが、執行停止をかけたものが、二
十多万ちつとございます。が、今後はやはり当然処置を
一かけなければならぬというふうに考えております。

なお、今後私の方といひまゝしては、税務二課で保険料の
徴収も取り扱うという観点からいたしまゝで、なるべくこ
ういうことにならないようにできる限り納税者に納税して
いただくようにやっていきたいと思ひます。

。三三番(高橋文治君)ただいまも答弁では、徴収不能とい
うものがあるようでございますが、そういうものがありまゝ

ならば、欠損で落した方がいいと思うのであります。

そういふと、正直者がばかを見るということになって結局、滞納者が多くなるといふ懸念があるのでお尋ねにわけがございす。了解いたします。

なほ、これは、保険課長さんにお尋ねいたしますが、国民健康保険の加入は、強制加入の建前になっております。現在、熊本市内ではまだ保険に加入してもらない者があつたということを知っておりますが、事実かどうか、この点をお尋ねいたします。

いま一つは、熊本市は、保険料として徴収してあります。が、これは、保険税として徴収するお考えはございせんか。その理由は、どうも納税者の方が税の方が重く見てゐるという方があつたのであります。

かつて私は部落の方の納税組合でもって、固定資

産税と保険料が一踏に令書が参りまゝたとき
 に税金を集めに行きまゝのところ、固定資産税の
 方は、こうまゝ置いて置くところ、保険料の方は少
 し位遅くてもいいということ、いわく、たゞで、保険
 料も税金と取り扱いは同じだといひますと、そういう
 もんですね、というふうになっておりますので、そういう関
 係から、多額の滞納があるのではなからうかと
 思つております。県下一八市の中に保険料とい
 へば徴収してあるのは、釧路市だけで、一七市は保
 険税といへば徴収してありますね、これが税の方か
 プラスになると思ひますが、予意見とお伺ひいたします。
 ・保険課長(池田亮山君) お答へいたします。現在、国民
 健康保険の被保険者が約五四%でございます。
 その他、生活扶助が大体一%、社会保険、共済保険

それらを合算すると四五%という数字でございます。
此指摘のうらに只今は国民皆保険でございます。

職場保険に加入しておられない者で生活保護法や
用を受けておられないもの、その他はすべて国民健康保
険の被保険者でございます。

そこで被保険者への届出の問題でございます。

私にちも広報やその他いろいろな機会を通じて
これが届出の勧奨をしておるわけでございます。

社会保険を喪失した者が当然に国民健康保険の
被保険者の届出をなさなければならぬ者が届出に
遅れる場合があるように聞いております。

そういった事態も確かに見受けられております。

これらにつきましても、今後なお、いさうあらゆる手段
を講じまして届出の促進ということに力をいたした

いと思ひます。

次に保険税と保険料との問題でございます。

現在、館山市は保険料で賦課してあるわけでございますが、料で賦課しきても、保険税で賦課しきても、総額に於いてはかわりがないわけでございます。ただ賦課の内巻で保険料の方が若干融通性があるわけでございます。

現在、所得割で三〇％、資産割で二〇％、均等割で三五％、世帯平等割で一五％、こういったような割で賦課してあるわけでございます。それから、所得割の基本でございますが、税にいたしますと、地方税法の制約を受けきり、課税所得金額を基本に、賦課することが建前になっております。

現在は料で参りますと、そこに若干の融通性がございます。

いよいよ鯉山市の市民税の税額を基礎にしておるわけでございます。そういう賦課の内容で料の方に融通性があつたわけでございます。ただし、指摘の通り税で賦課することが利点も相当あるように私もちも考えておりまして三十七年度以来税に切りかえるべきいろいろと計画もし、研究を重ねておるわけでございます。

今年度は結論を得ませんで、三十八年度は、料のまゝでありますが、三十九年度あたりでおそらく税に移管する何らかの結論を生み出したい。かように考えておるわけでございます。

一、(関武夫君)直診勘定は歳入の欄で前年度繰越金七十万追加計上いたつております。昭和三七年度の五月末の未納税額にすると千二百

六十万ばかりの繰越金が出ておりますが、当初予算で事業勘定の方に五百万円の繰り越しの予算が出ておりますから、今日の七十万と五百万、あと七百万近いものが、まだ繰り越し措置が講じられていない。三十八年度、どうやら活用なさるものがある伺いしたいと思っております。

・保険課長（池田亮山君）直診勘定の決算見込でございませう。

私たちが推進いたします直診勘定で百六十万の繰り越しと見ております。これは五月三十一日に出た実績、そのうちの今回追加财源として計上いたしておりますが、七十万でございませう。

あと残りのものでございますが、診療所の国保の運用の状況に依りまして、施設の改善、拡充、そう

いったものが考えらるるわけでございます。

一ばらくこの際、財源として、保留しておきます。

なお、や意に及ぶ総額で申しますと、事業勘定も含めたものであります。

事業勘定で申しますと、当初予算の時に大体の見通しは千百万円程度の繰り越しがござる。そのうちの七百万円を三八年度の保険料の軽減に充当する。以上でございます。

・議長（里見佐太郎君）おはかりいたします。本案を討論者略原案通り可決いたしますことにより、異議ありません。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（里見佐太郎君）や異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決いたしました。

日程才二議案才七八号を上程いたします。

・二番(鈴木正一郎君)鳩山荘のことについてでありますが、鳩山荘でプロパンガスを使用しております。そうプロパンガスが白波や早川という店から来ておるといふお話ですが、現在も白波から納入されておるかどうか。これは、どういう理由で市内に四ヶ所からプロパン業者がおるそうでございます。にも、おめわらず、市内の業者をいらないで白波からプロパンガスを納入していか。この点についてお伺いいたします。

・総務課長(山口実君)お答えいたします。ただ今は、鹿山市内の佐々木商店から購入しております。

・議長(黒川佐太郎君)おわかりいたします。本案は、討論者略原案通り可決いたしますことに中議決をリョせんか。

(「夏議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)中夏議なしと認めます。よって
本案は、原案通り可決さしよした。

日程才一ニ議案才七九号を上程いたします。

・二七番(鳩田繁君)簡単に賛成いたします。

当初予算におきまして八百万、国庫支出金があった。
追加によりまして大体二百八十五万です。三百万近く
減額をしております。まだ予算編成を以て三、四カ月で
ございますけれども、どうもこういうふうになつた。

短期間の間に削減しなければならぬ。これをお慮
さうなうと思ひます。

・厚生課長(吉田耕一君)お答え申し上げます。当初にお
きまして大体見込みとして国庫補助金を八百万と
いう数字を見込んでおりましたが、中案内う

ように今回も更正でもわかりますように、総合的な事業費の削減というようになことをわらいたしよってこの程度の額をどうしても減らさなくてはいけないというはめになったという理由によりまして、国庫の炭係で二百八十五万、県の補助金等におきまして、それに相応しい額を減額してきたというふうな状態でございます。

・二七番（嶋田繁君）それでは事業の方を減らした。初めの計画よりも事業を小さくした。そのため、国庫補助金ですか、これに減ったんですね。

・厚生課長（吉田耕一君）規模を小さくしたということではございまして、当初に計画いたしまして、やはり申し上げますと、本当に設計というものをせずに、大体の線を描き、当初で見込んでいたというふうなことを、今

回厚生を願ひいたのははつきりとした細かい設計
に基いた額におきまして相当難数の差を見たと
いう結果によるものでございまして規模におきまし
ては当初の計画の規模とかわりございませぬ。

・二七番(鳩田繁君)地元から多額の寄付がきてございま
す設計が違つておつたという面に対して私は率直に申
上げますが、こういう仕事をいたしますうちに、サシ
ずさんではないか。もう少し、見通しをしっかりと
そうして計画を立てる。図面、その他においてしっかりと
したものを作ってもらう予算に計上すべきでは
ないか。こう私は感じます。それによって、影
響をいくようになります。その上にさらに地元は九十三
万多くここに寄付を持ってこさせる。こういう結果にな
ります。これはまことにお気の毒だと思ひます。

＝ 資料目録
当初予算を組むときにもう少ししっかりたずさ
でないものを作ってもらいたい。こういうふうには考え
るものでございます。

この点について将来の考えをお聞きたいでしょう。

・厚生課長(吉田新一君)お答え申し上げます。確かに予算
とはいいいながら、当初に計画をすむという面から参りま
すれば、ただいまのお説通りでございます。

しかしながら、今申し上げるような地元の金に大部分
でございまして、地元から強い要請等がございまして
実際にやるとすれば、形において表わす予算化いた
すことによってというふうな観点から実際には安易な
予算化の依り方だと、私ども考えますが、地元の
要望にこたえるべく、当初予算にこういう線をお
願いたくという結果であります。私どもも大いに

反者一てあるわけでございますが、今後は大抵いふや
指摘のような点を一二分に考えまゝで、そういうことの
ないようになつていふことを申し上げて、答
弁にかえさうていただきます。

・議長(黒川佐太郎君)おはかりいたします。本案は討論者
昭原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よつて本
案は原案通り可決さうまゝ。

おはかりいたします。大抵いふ、市長から議案オハハ号
館山市監査委員の選任について及び、議案オハハ号
館山市教育委員会委員の選任について。以上二議
案を送付さうまゝ。

こゝ際、これを本日 of 日程に追加し、大抵ちて議題とい

たしたいと思ひます。

これにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。

よつて議案才ハハ号及びハ一号を日程に追加し議題
としたことに決定いたしました。

議案を配付いたさせます。

(議案配付)

議長(黒川佐太郎君)議案の配付漏れはございませんか。
ーひとと認めます。

議案才ハハ号を上程いたします。

(書記朗読)

議案才ハハ号 館山市監査委員の選任について

(市長 本間謙君登壇)

・市長(本間 讓君)オハコ号議案につきまして申し上げます。
欠員中の監査委員につきまゝいろいろ候補者
を物色いたしましたのでございますが、三平宏君は
本件につきまゝ一審適任者だと思ひまゝミニ
推薦申し上げる次第でございます。
是非とも、御同意願いたしたいと思います。

・議長(黒川佐太郎君)本案に対しまして、御質疑ございま
せんか。一、なしと認めます。

本案に対する討論は、これを省略し、直ちに採決い
たしたいと思ひます。が、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)御異議なしと認めます。よつて
これより採決を行います。

この採決の方法は、起立の方法で行ないます。

二 自由討論
本案を原案通り決定することに賛成の諸君の
起立を求めます。

(起立満場)

議長(黒川佐太郎君)起立満場一致で本案は原案
通り同意することに決定されました。

議案才ハ一号 館山市教育委員の任命について
を上程いたします。

(書記朗読)

議案才ハ一号

館山市教育委員会委員の任命
について。

(市長本間 譲君登壇)

市長(本間 譲君)本市教育委員が欠員でございま
すが、その後任をいろいろ選挙一より、服部

武治郎君がもつとも適任と思ひまして、ここに推薦

薦申し上げるわけでございます。

是非とも中同意を願いたいと思います。

・議長（黒川佐太郎君）本案に対し、中賛疑でございますか、
ーなしと認めます。

本案に対する討論はこれを省略し、直ちに採決いた
ーたいと思います。

これに中賛議でございますか。

（「中賛なし」と呼ぶ者あり）

・議長（黒川佐太郎君）中賛議なしと認めます。よって
これより採決を行います。この採決の方法は起立

の方法で行ないます。

本案を原案通り決定することに賛成の諸君の起立
を求めます。

（起立多数）

議長(黒川佐太郎君)起立多数であります。よつて本案は原案通り同意することに決まりました。

本定例会場に付議せられた議事はすべて議了いたしました。

よつて、会議規則オ七条の規定により、本日をもって定例会を閉会いたしますことに由り異議ありませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)此異議なしと認めます。よつてオ二回市議会定例会は本日もつて閉会と決まりました。(拍手)

午後八時一六分 閉会

今日の会議に付いた事件

一 議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝藏

田中 禄郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

辻田 実

石井 正

黒川 佐太郎

菊井 敏博

志村 信作

小沢 惠太郎

関 武夫

飯田 義男

西村 真次

藤田 好治

保科 忠夫

江田 徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

荻生田七郎

鈴木孝

鳩田繁

山田教幸

鈴木市藏

安藤亀吉

安沢徳順

三沢菊

高橋文治

山本昇

松本藤太郎

山口康

欠席議員

安西益男

出席事務局取員

才一日目と同じ

出席説明者

才一日目と同じ

昭和三十一年六月二十五日

右会議の次第を録し、ここに署名す。

館山市議会議長 山内 修吉

同 署右議長 松本 正吉

同 同 山内 修吉

